

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろうの郷  
 広報委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原28番地1  
 TEL:0799-25-8550  
 FAX:0799-25-8551

## お知らせ

いよいよ第4回ふくろうふれ愛まつりが  
 10月25日(日)に開催されます。模擬店や舞  
 台発表もたくさんあります。  
 みなさまのご来場を心よりお待ちしております。  
 ります。

### 中川原小学校・保育所の子どもたちと力を合わせて



▲ 保育所の子どもたちと入所者が一緒になっ  
 て力をあわせ芋掘りをしました。

実りの秋が淡路ふくろうの郷にもやつて来ました。ゴールデンウィークにみんなで植えたサツマイモが10月1日(木)、収穫のときを迎えました。

前日まで日中雨が降り続く生憎の天候で心配しましたが、当日は朝から快晴で予定通り一緒に力を合わせて収穫することができました。

掘り出されるサツマイモの大きさに一同びっくり。

園児、入所者さん共に笑顔と歓声の中で収穫することができました。



▲ 子どもたちと元気に玉入れ。

9月19日(土)、当日は快晴でしたが風が強く、少し肌寒さを感じる中での中川原保育園・小・中学校合同運動会開催でした。今年も入所者の皆さんが参加し、玉入れに出場しました。子供たち、老人会の皆さんと力をあわせて競技を楽しみました。

(介護・神代)



▲ いこいの村のみなさんと玄関前で記念撮影。

### 七施設交流会 in 淡路ふくろうの郷

全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会に加盟する7施設が毎年持回り入所者交流会を開催しています。今年は9月14日15日の2日間、淡路ふくろうの郷が担当で行われました。

日本各地の高齢老人ホームの入所者・職員含めて64名が参加され、初日は淡路ウエスティンホテルで交流会を開催しました。淡路ふくろうの郷からは22名の入所者さんが参加し、美味しい料理と久しぶりに会う仲間たちになみなさん笑顔で大はしゃぎでした。

2日目は参加者が淡路ふくろうの郷に来られ、施設内を見学しました。

昼食を兼ねた交流会ではいこいの村の自治会(年輪の会)から、サプライズで淡路ふくろうの郷自治会へ手作りのプレゼントを頂きました。

交流会は、参加者の最高齢である京都いこいの村95歳の米沢さんの「これからも元気で、来年また会いましょう」との挨拶で締めくくられました。

(介護・岩林)

# 敬老旅行 in 島根

9月12



▲ みなさんに良いご縁がありますように。

淡路聴力障害者協会主催の敬老旅行に淡路ふくろうの郷の入所者さん6名が参加されました。  
1日目は足立美術館を見学し、玉造温泉に宿泊。2日目は出雲大社と境港を見学しました。  
玉造温泉での夕食はさながら宴会気分。ビールを飲んでみなさん良い気持ちです。  
シジミや白魚といった地

た。淡路聴協のはからいで、「敬老」と題して、高齢者のみなさんにプレゼントが贈呈されました。みなさん突如のプレゼントにびっくりした様子でした。  
出雲大社では巨大なしめ縄を見学。そして縁結びの神様に丁重にお参りしました。境港ではとれたての新鮮な魚介類を使ったお寿司に舌鼓。



▲ 風呂上りの夕食は最高！



▲ 御膳を前にハイポーズ！

入所者のみなさんはたくさんのお土産と、たくさんのお思い出を持って帰路に着きました。  
淡路聴力障害者協会のみなさま、ボランティア協力をいただいたみなさま、ありがとうございました。

(介護：角村)

## 第30回兵庫県ろうあ婦人のついで

9月6日(日)、豊岡で第30回ろうあ婦人のついでが行われ、今年も淡路ふくろうの郷から4人参加されました。

入所者の谷さんは豊岡から夫婦で淡路ふくろうの郷にいらつしやいました。久しぶりの豊岡ということ、出発前からも楽しみにしていらつしやいました。

地元の皆さんから「豊岡にいた時よりも明るくなったね」「元氣そうで良かった」と声をかけられ、皆さんにお会いしたことで谷さんもいつもより更に笑顔でした。

畠さんや福島さんの周りにも「久しぶり、元氣？」と沢山の人が集まり、みんな嬉しそうでした。

盲ろうの藤本さんは外出されるのが大好きな方です。行きのワゴン車の中でも、ずっとお話しを楽しんでいらつしやいました。

参加された4人の皆さんのステキな笑顔を見て、私も元氣をいただきましたし、ご一緒できて本当に良かったと思います。

講演は「今を生きるくながまたちのふれ合いの中で」というテーマで、最後に兵庫県各施設の紹介もあり、谷さんが淡路ふくろうの郷での作業のお話しを少しされました。

遠出だったので心配でしたが、皆さん満足した様子で、淡路ふくろうの郷に着かれても興奮冷めやらぬ、という感じでした。

(淡路聴力障害者協会 女性部長：伊達美紀)



▲ 参加者全員で記念撮影

### ふくろう喫茶のお知らせ

◆開催日時◆

11月15日(日) 13時～15時

コーヒー・ココア・紅茶 などなど1杯200円より

# ボランティアさん紹介 ④ 中尾 都さん



中尾さんはいつも佐藤先生のお誘いを受けて書道講座の手伝いに来て下さっています。書道講座を手伝うに当たって、入所者の方々と話がしたいと自ら手話を学ばれて、積極的に話そうと頑張られています。

92歳とは思えないほど元気ハツラツで、お話の最中、横文字もよく使われていました。4時半に起きて庭のお花にお水をあげるのが日課だそうです。

また多趣味な方で、以前はグランドゴルフをされていたそうです。

現在の趣味は①『木彫りの彫刻』これまでに5つ作られました。ただいま阿弥陀さんを製作中です。

②『読書』小さい字もよく見えます。

③『運転』新車を買われました。



▲ いつも元気な中尾都さん (右から二人目)

④『コーラス』老人大学(集まりみたいなもの)の仲間と楽しんでいます。  
仲間の話では、中尾さんは先に人の迷惑を考えてしまつて、自分から身を引いてしまう、よく気を遣われる方だそうです。お話ししている時も、仲間の方がお話を引き出して、それを伝えて下さっていました。  
(介護：田中)

私は今でも尚、淡路ふくろうの郷を訪れると感慨無量になる。兵庫の聴覚障害者30年来の夢を實現できた場所だからである。建設にこぎ着けるまで、本当にみんなよく頑張ったと思う。そして、これからも頑張るぞ!と自分を奮い立たせられる場所でもある。  
さて、この度、今夏の衆議院総選挙で圧勝した民主党が政権を獲得した。国民の大多数が自分の将来に不安を持っている今の日本。なんとかしてほしいという願いで新しい政党に一度やらせてみるか!と思った結果だろう。人は誰でも幸せを求めて懸命に生きています。障害があってもなくてもそれ

## 理事リレーエッセイ

本郷善通 理事

は同じだ。  
しかし、障害者自立支援法では生きていくために必要な支援ですら「利益」と解釈された。民主党はこれを廃止し、新法を作るとしているが、どんなものになるかの具体的な提示はこれからである。そもそも財源不足を補うために出てきた応益負担である。廃止後には何らかの負担増加があるはず。我々はその動向をしっかりと見ていかなければならない。  
そして、次の夢の實現にがんばりたいと思う。



■ 中務幸子さん(83)



■ 榎田文吉さん(86)

新しくお二人の方が入所されました。



※右から

■ 相良 理さん (82) 昭和2年10月14日

■ 山岡 典代(介護職員)

■ 花房 ふさ子さん (85)

大正15年10月11日

■ 八木 勝光(事務長)



# 地域を語る

## 第10回

### 一国一字市原の庚申さん

宝来山松栄寺  
笹津寛照住職

赤い煉瓦塀の見える参道石段の途中に「一国一字市原庚申堂」と刻んだ石柱がある。

この「一国一字」の意味は『淡路国唯一』という事であり「庚申」は『病氣平癒の仏様の俗称』である。

この仏様の名前は『青面金剛』と言い、当寺では秘仏となっていて、六十年に一回、庚申の日に御開帳され、前回は昭和五十五年春に大祭が行われている。

庚申さんはかつて松栄寺の北方やく六〇〇mの所にあつた松林寺に祀られていた。寛文十二年(一六七二)松林寺は庚申さんを祀ろうとしたが、庚申総本山・大阪・四天王寺から異議が出たので、正式に四天王寺に願い出て勸請し庚申堂を建てたという。



▲松栄寺  
洲本市中川原町市原

その時に四天王寺より拝命した勅額文が「一国一字淡路庚申」である。後に松林寺は廃寺となり庚申堂を松栄寺に移し現在に至っている。堂内には当時のものと思われる宝永四年(一七〇七)の銘がある屋根瓦が陳列されている。現在の庚申堂は大正九年に銅版に葺き替え、平成三年に再び屋根の葺き替え工事が行われている。

歴代の住職には、庚申さんを拝み病氣除けを行う行為の方法が伝わっており、今もって島内外から修法の申し込みがあり、よく人々を助けてくれる有難い仏様として親しまれている。

## 部署紹介⑤ 山ユニット



▲山ユニット玄関前で撮影

淡路ふくろうの郷はユニット制の(特養)です。全部で7つのユニットがあり、それぞれ自然にちなんだ、誰もが簡単に手話で表現できる名前が付けられています。

山ユニットはショートステイを利用されるみなさんのご支援をさせていただいています。担当職員は7人です。利用者みなさんに、ご家庭と同じようにリラックスして過ごしていただけるよう努めています。

現在、中川原地域はじめ、島内・島外のたくさんの方に利用していただいています。とてもありがたいことだと思っています。自宅に帰られる際、次回の利用が待ち遠しく感じただけのように、職員一同、これからもがんばっていきます。

(山ユニットリーダー：加野)

## 第5回ふくろう学習会

～梅木さん夫妻を迎えて～

9月19日(土)、第5回ふくろう学習会の講師として、梅木久代さん・好彦さん夫妻が淡路ふくろうの郷にいらしてくださいました。

久代さんは生まれながらのろう者ですが、小学4年生頃から徐々に視力も低下しはじめ、37歳頃にはほとんど見えなくなりました。

夫の好彦さんは聴者です。お若い頃から自給自足の農業を志され、今もそれを実践されています。

お二人はいつも触手話で会話されています。そして、久代さんは点字も勉強されたので、特殊なパソコンを使って、たくさんのお友達とメールのやり取りもされています。

喧嘩することもよくあるそうですが、好彦さんと会話する久代さんの表情は本当に楽しんで、穏やかです。

この日、夕食をご一緒させ

ていただいたのですが、久代さんはいつも好彦さんの片手の甲にご自分の片手をチョッコとせていらつしやいます。お二人にとつて触手話での会話は本当に自然なもので、好彦さんの少しの手の動きでも久代さんは理解されます。

お互いがお互いが必要としている関係、仲良く会話されている様子を見てみると、聞こえる、聞こえない・見える、見えないに関係なく、夫婦のあり方を教わった気がしました。

多くの方々にお二人の人生を知っていただきたいと思います。本も出版されていますし、テレビでも以前、シリーズで特集が組まれたことがあります。みなさんも機会がありましたら是非是非、ご覧になって下さい。

(事務：森岡)

## 第6回ふくろう学習会のお知らせ

立命館大学産業社会学部現代社会学科教授

石倉康次先生

◆講演予定◆

高齢者・障がい者のこれからの暮らし

～制度改正による影響、今後の行方～

◆開催日時◆ 11月21日(土) 13:30～



左・好彦さん  
右・久代さん



▲触手話通訳をしています。